

# 給付型奨学金の申込みをしたものの、認定を受けられなかつた方へ

Q 日本学生支援機構に給付型奨学金の申込みをしましたが、認定を受けることができませんでした（不採用となりました）。もう今後はずっと、本制度による支援を受けることはできないのでしょうか？

A 一度、申し込んで認定を受けられなかつた人であつても、その後の在学採用で、また申し込むことができます。

毎年6月頃に住民税情報が更新されるので、例えば、高校生のときの予約採用や、大学等に入学した4月に申し込んで不採用だった人でも、秋に申し込めば採用される可能性があります。

2021年4月の申込みでは2019年の所得に基づく住民税情報、2021年秋の申込みでは2020年の所得に基づく住民税情報により判定されます。（対象になれば、授業料減免も併せて受けられます。）

例えば…

The diagram illustrates two scenarios for a household of four:

**Top Scenario:** A household of four (50-year-old parents, 18-year-old son, 15-year-old daughter) with an annual household income of 4 million yen. They applied for a scholarship in April 2020 based on their 2019 tax information. This resulted in a red 'X' and a message stating they did not meet the household budget criteria.

**Bottom Scenario:** The same household in the second year (51-year-old parents, 19-year-old son, 16-year-old daughter) with an annual household income of 3.7 million yen. They applied for a scholarship in autumn 2021 based on updated tax information from June 2021. This resulted in a blue circle and a message stating they met the household budget criteria.

**Right Column:**

- A boy with a question mark above his head.
- Text: "これは、給付奨学金の判定のために確認する住民税の情報(収入の情報)が前年のものであり、それを確認できるようになるのが夏以降だからです。今後も、状況が変化していたら、次の年の秋に申込めば対象になるかもしれません。"
- A large red 'P' symbol.
- Text: "次の年に状況が変わつていれば… (住民税情報は2021年6月頃に更新)"
- Text: "詳しい基準は「**進学資金シミュレーター**」で確認してみましょう！"
- A small image of the "Study Support Simulation" booklet.
- A QR code.

※ 上記は4人世帯の場合の一例です。基準を満たすこととなる年収の金額は、世帯の構成や年齢等によって変わります。